

4. ペッチャブーン県



ペッチャブーン県はタイ国中北部にあります。バンコクから約346キロ離れた位置にあり、面積はおよそ12,668平方キロです。北はロエーイ県、南はロップリー県、東はチャヤブーム県とコーンケン県、西はピチット県、ピッサヌローク県及びナコーンサワン県に接しています。

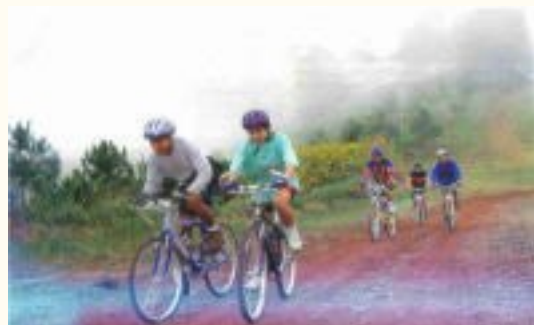
同県の起源はかなり古いと言われていています。町が形成された時代を示す明確な証拠はありませんが、千年以上も前の都市やヒンズー様式の塔の遺跡、土地神の像などの出土品が発見されており、その起源はスコタイ時代とアユタヤー時代の二つの時代に遡ると推測されています。

ペッチャブーン県は山に囲まれた土地です。北部には馬の蹄鉄の形をしたペッチャブーン山があり、その尾根が同県の東西に延びています。県内の土地の40%が山岳地帯です。そのため気候は夏季にはかなり暑く、冬季には寒くなります。また、高地は年間を通して涼しい気候です。

第二次世界大戦の折、同県は臨時首都になるところでした。バンコクが攻撃され人々が地方への避難を余儀なくされたため、当時の首相は首都をバンコクからペッチャブーン県へ移転するべきだと考えました。同県は山に囲まれ進入路がヶ所しかないため、敵にとっては侵略が難しい土地となっていたからです。しかし最終的に国会が賛成しませんでした。



タマリンド



同県では県民の85%が農業従事者です。主要農産物は飼料用トウモロコシ、緑豆、米、タマリンドです。特にタマリンドは果肉の甘味が豊富な品種（マカーム・ワーン）を栽培しています。その美味しさはたいへん有名で、ペッチャブーン・ブランドとして定着しています。

ペッチャブーン県の景勝地には、“タートモーク滝”があります。落差750mの間に12段の滝を形成するこの滝はタイ国内最大の滝と言われています。また、海拔1,290mの“コー山”はその周囲の山々とともに壮大な風景を造りあげており、ここでは年間を通して涼しい気候を満喫することができます。